

先の 4 月 18 日(日)に行われた新試験制度 3 回目となる平成 22 年春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系 5 試験の合格発表がありました。同時に発表されたスコア分布などの統計データをもとに、エンベデッドシステムスペシャリスト試験の合格発表コメントをお知らせします。

エンベデッドシステムスペシャリスト試験 (ES)

[平成 22 年春期のエンベデッドシステムスペシャリスト試験 統計情報]

応募者	6,641 人
受験者	4,807 人
合格者	858 人
合格率	17.8%

エンベデッドシステムスペシャリスト試験は、旧テクニカルエンジニア(エンベデッドシステム)試験と同等のレベル、内容の試験です。

新試験制度で第 2 回目の実施となる平成 22 年春期のエンベデッドシステムスペシャリスト試験の応募者は、初回の平成 21 年春期試験と比べて 800 人ほど増えました。合格率は 17.8%で昨春の 16.9%に比べて 1%増えており、過去最高の値となっています。

なお、今回の新試験から従来の午前試験が午前 と午前 の試験に分かれました。

[午前 試験 (高度試験の共通知識問題)]

・高度試験に共通して出される問題 30 問は、前回の試験と同様にすべて応用情報技術者試験(AP)から選ばれていました。過去問題の比率は 5 割弱で前回よりも減っています。

・分野別の出題比率は前回と同じで、出題範囲の中で 23 ある中分類からまんべんなく出題されています。今回の試験で 2 問出題された中分類は次のとおりですが、他の分類に比べて少々重要視されている分野といえます。

(2 問出題された中分類)

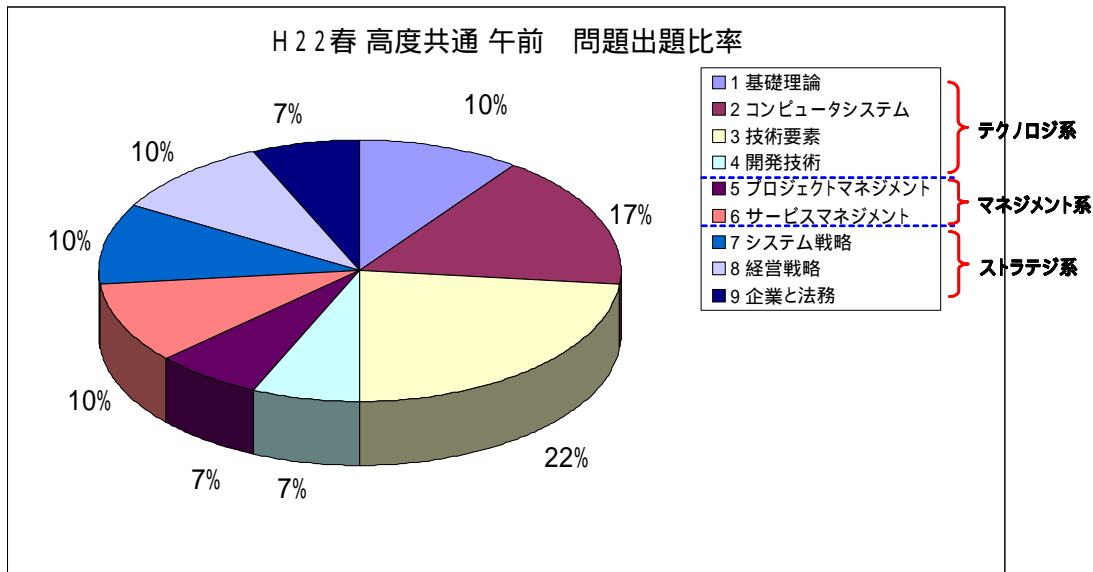
アルゴリズムとプログラミング、ソフトウェア、データベース、セキュリティ、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム戦略

・新傾向または新しい用語に関する問題は次のとおりです。

(新傾向問題)

- 問 3 (= AP 問 8) 妥当な XML 文書
- 問 9 (= AP 問 26) ヒューリスティック評価法
- 問 14 (= AP 問 42) LAN アナライザ
- 問 18 (= AP 問 51) プロジェクトライフサイクル
- 問 20 (= AP 問 54) ITIL v3 (問題管理プロセス)
- 問 26 (= AP 問 67) チャレンジ戦略
- 問 27 (= AP 問 69) 技術の S カーブ

平成 22 年春期の高度試験共通 午前 問題出題比率



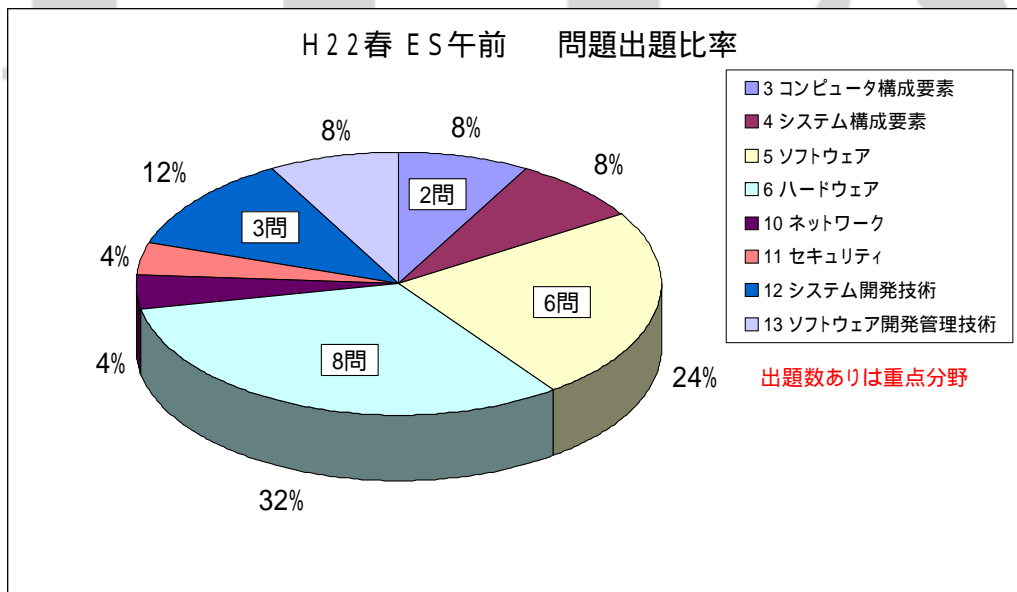
〔午前 の専門知識問題〕

午前 試験はレベル 3 相当の基本的な問題が多いといえます。今回、エンベデッドシステム専門分野としてのハード、ソフト、システム開発関連問題が 17 問出題され、前回の 7 問に比べて大幅に増加しました。また、ハードウェア関連の論理回路に関連する問題（反転増幅器、A/D 変換信号波形、LED 点灯回路、PLL の周波数、メモリアドレス、ラッチ制御信号）も過去に出題されたことのある問題も含めて複数出題され、旧試験の内容に近づいた内容に戻りました。

新傾向の内容としては、次の問題が挙げられます。

- 問 1 反転増幅器
- 問 4 16 ビットタイマコンペアレジスタに設定する値
- 問 9 NFS (Network File System) の特徴
- 問 18 イーサネットの MAC アドレス

平成 22 年春期のエンベデッドシステムスペシャリスト試験 午前 問題出題比率



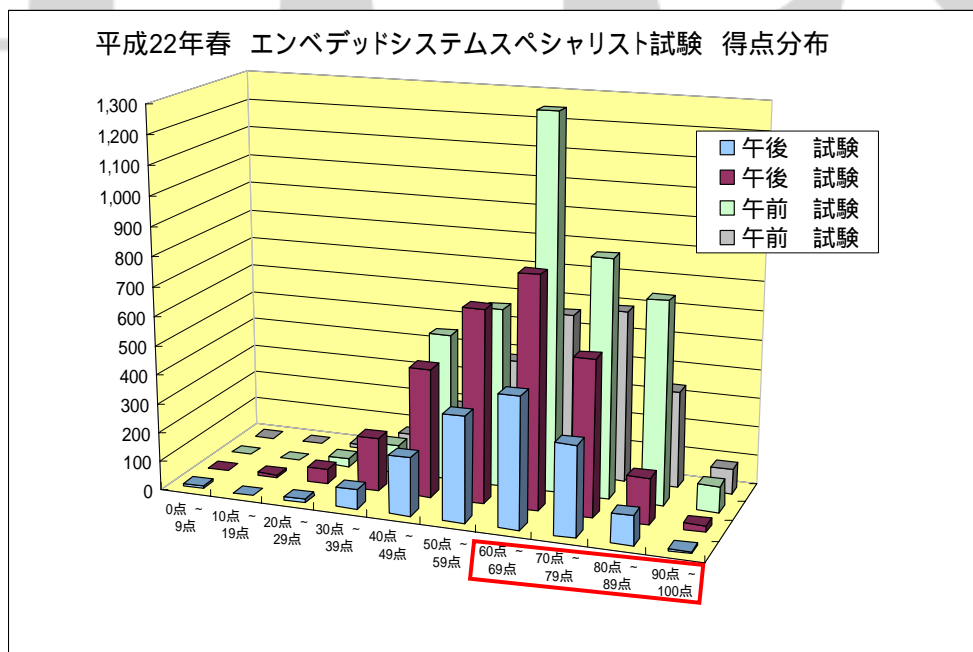
〔午後問題〕

- ・午後 問題の出題分野とテーマは次のとおりです。新試験では出題数が4問から3問に減り、解答数も3問から2問に減りました。1問あたりの設問数もあまり変わっていないので、DB試験などと違い、受験者負担は軽減されたといえます。
- ・問1がハード/ソフトウェア設計の融合した内容で必須問題(40点)、問2のソフトウェア設計と問3のハードウェア設計(60点)が1問選択という出題形式になっています。
 - 問1 通信機能をもつ宅配荷物受取システム(ハード/ソフト設計) **やや易~普通**
 - 問2 可搬型パーソナル天体観測システム(ソフトウェア設計, 選択) **普通**
 - 問3 LED照明器具(ハードウェア設計, 選択) **やや易~普通**
- ・午後 問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。問1が計算が多い、問2が記述する文字数が多いという特徴がありますが、難易度としては普通レベルで解答できる内容です。
 - 問1 自走式掃除機(ハードウェア設計) 計算問題多い, **普通**
 - 問2 野菜栽培工場(ソフトウェア設計) 解答記述量多い, **普通**

〔平成22年春 エンベデッドシステムスペシャリスト試験 スコア分布〕

得点	午前 試験	午前 試験	午後 試験	午後 試験	合格者
0点 ~ 9点	0	0	1	9	
10点 ~ 19点	2	0	10	0	
20点 ~ 29点	16	29	53	10	
30点 ~ 39点	75	97	184	68	
40点 ~ 49点	191	504	441	199	
50点 ~ 59点	382	612	661	360	
60点 ~ 69点	561	1,280	791	446	
70点 ~ 79点	590	816	533	307	
80点 ~ 89点	334	694	158	99	
90点 ~ 100点	87	90	23	6	
計	2,238	4,122	2,855	1,504	858
対前試験比率		184.2%	69.3%	52.7%	57.0%
午前 免除者(概数)	2,569	53.4%			

合格者数	858	採点者数の割合	合格者数との差
午前 60点以上合計	1,572	70.2%	714
午前 60点以上合計	2,880	69.9%	2,022
午後 60点以上合計	1,505	52.7%	647
午後 60点以上合計	858	57.0%	0



新試験制度で春期の試験で午前 試験免除になった人がたくさん出ましたが、得点分布を分析してみると、今回午前 試験の免除者は概算で 2,569 人(53.4%)おり、受験者の約半数が午前からの受験となりました。試験実施前は 6 割以上が免除者になると予測していましたが、実際の免除者は予想よりも少ない結果でした。

得点分布を分析してみると、高度系共通の午前 試験で基準点(60 点)以上の人は 1,572 人(受験者の 70.2%)、午前 試験で基準点以上の人は 2,880 人(受験者の 69.9%)と高い率になっていますが、前回の午前 は 91.1%の人が 60 点以上取れる非常に易しい試験だったので、専門知識を増やしたことによって少し難しくした傾向が伺えます。他の高度試験でも同じような傾向があり、今後も午前 , 午前 試験ともに、もう少し難易度を上げると予想されます。

午後 で基準点(60 点)以上取れた人は 52.7%で、前回試験の 39.4%に比べて 13%ほど上がっており、特に易しいとはいえない問題ですが、比較的得点できたことが分かります。午後 で基準点(60 点)以上取れた人は 57.0%で、前回の 60.1%と比べれば減少していますが、高い比率といえます。

午後の試験で合格スコアに至らなかった方は、次回試験の対策として、専門知識分野で「午前試験で出題される知識の理解度をまず上げ」、その次に、「午後試験で必要とされている知識を題材として、さらに深く学習する」のがよいでしょう。

合否別の試験対策と通信教育、セミナーのご案内 (今回合格された人へ)

合格された方で今秋の情報セキュリティスペシャリスト、ネットワークスペシャリスト、システムアーキテクト、IT ストラテジスト、IT サービスマネージャ試験を目指す方は、午前 試験が免除ですので、午前 の専門分野知識について、なるべく早く試験対策を始めましょう。まずは該当分野の応用情報技術者試験の問題を解くことをお勧めします。

午後 試験が論文となるシステムアーキテクト、IT ストラテジスト、IT サービスマネージャ試験を受ける方は、新試験の内容や出題範囲をよく理解して学習することが必要です。論文試験で合格点の A 評価を取るためには第三者の添削が欠かせません。アイテックの通信教育では必要なテキスト、模擬試験に加え、論文添削も行っていますので、ぜひご利用ください。

アイテックで出版している試験対策用の教科書(基礎テキスト)は新試験用にレベルごと分野ごとに新たに編集し直したものです。また、出題ポイントを効率的に学習するための「合格への総まとめ」、各試験別の予想問題集、本試験問題は新試験の出題内容を研究し改訂しています。これらすべての書籍が書店またはアイテックの Web ページ(<http://www.itec.jp/shop/>)でご購入いただけます。ぜひご利用下さい。

通信教育コースでは、高度系の午前 試験が免除になる方のために最適な教材をお得なセット価格でご提供する標準学習時間 3 か月の「**免除コース**」をお勧めします。高度専門知識テキスト、午後試験重点対策テキスト、予想問題集、本試験問題集、模擬試験(2 回)、論文添削(2 回;午後 が論述試験のコース対象)の教材が含まれています。ぜひ、ご利用ください。

午前 試験に出題される IT 共通知識のレベル 3 も含めて、総合的に学習したい方には、基礎テキスト(分野別全 6 冊)、午前 対策用「合格への総まとめ」、午後試験重点対策テキスト、予想問題集、本試験問題集、模擬試験(2 回)、論文添削(2 回;午後 が論述試験のコース対象)をすべて含んだ標準学習期間 6 か月の「**総合コース**」をお勧めします。

この他、テキストなどをすでにお持ちの方向けに、問題演習を中心に行うための午前ポイント集、最新問題集(予想問題集、本試験問題集)と模擬試験(2 回)、論文添削(2 回;午後 が論述試験のコース対象)をセットにした標準学習時間 4 か月の「**速習コース**」ほか、各コースの e ラーニングなどメニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

また、試験対策を受験対策のプロ講師が解説するセミナー「**合格ゼミ**」は、試験対策のノウハ

ウや専門知識を効率的に理解できるセミナーと大変好評を頂いており、お勧めします。
締切りの近いコース・セミナーもありますので、急いで確認しましょう。

各コースの内容は弊社のホームページからご覧いただけます。

<http://www.itec.co.jp/>

今回残念ながら不合格だった人

まず、午前 の試験で 50 点に満たなかった人は、自分がよく理解していない内容について早めの学習が必要です。時間のない方は、「2010 合格への総まとめ 応用情報・高度 午前共通知識対策」で出題ポイントと必須問題で効率的に学習を進めましょう。基本事項を理解していない人や苦手な分野がある人は、アイテック刊行の新試験用のレベル 3 の教科書（通信教育教材）でじっくり学習することをお勧めします。

今回の午前 ，午前 試験の得点が 50 点～59 点の人は、合格までほんとうに“あと一歩”のところまで実力が来ていますので、学習した知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策として復習を行い、新たに加わった分野の学習を始めましょう。また、午後試験の得点が 60 点に満たなかった人は、まず午前 の専門知識の内容に関して、午後試験問題を解答するのに必要な知識を確実に理解してください。

次に確実な解答を出すために、落ち着いて問題を解き、解答が正しいかを検証する力を付けましょう。新試験では選択範囲が広がったことで解答しやすくなるとも言えますので、チャンスが広がると考え、早めに対策を行いましょう。なお、午後試験に強くなるには、時間を決めた問題演習を繰り返し行うのが有効です。

通信教育コースでは、問題集などの書籍と画面上での問題演習を組み合わせた e ラーニングコースを来春試験用に 10 月に開講する予定です。詳しくはアイテックのホームページでお知らせさせていただきます。

また、試験対策を受験対策のプロ講師が解説するセミナー「**合格ゼミ**」は、試験対策のノウハウや専門知識を効率的に理解できるセミナーと大変好評を頂いており、お勧めします。エンベデッドシステムスペシャリスト試験の対策セミナーも開講する予定がありますので、e ラーニングコースと合わせて、アイテックのホームページをご覧ください。今年の 8 月下旬より順次お知らせを掲載する予定です。

各コースの内容は弊社のホームページからご覧いただけます。

<http://www.itec.co.jp/>

「合格への最短コース！ 合格ゼミ」

受験対策のプロの講師の講義で効率的な学習を進めましょう。

定員に近い申込者数のコースもあります。お早めにお申込みください。

<http://www.itec.co.jp/howto/seminar/index.html>

（以上）